

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 枝光台 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

#### 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

#### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

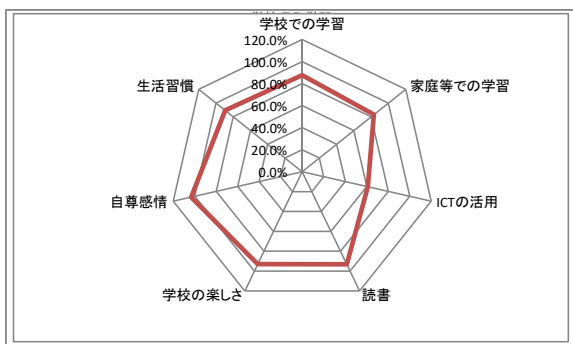
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識・技能に関しては、「情報の扱い方に関する事項」で全国平均を上回っていたが、「言語事項」に課題が見られた。また、思考力・判断力・表現力に関しては、「書くこと」について全国平均を上回っていたが、「話すこと・聞くこと」に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。」問題は全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	「比喩法(直喩法)などの表現技法を問う問題」に課題が見られた。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比べると、ほぼ同程度の正答率であった。正答数の分布が二極化の傾向にあるが、無回答率が全国平均を下回る問題が多い。また、記述式の平均正答率が全国平均を上回り、書く力の取り組みの成果がでた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数学的な表現を用いて説明する問題ができ、データを読み取る正答率が高い。	
	努力が必要な問題	簡単な二元一次方程式など基礎的な問題を間違えずに注意深く解く必要がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	中間層の割合が大きく、無回答率が0%の問題がかなり多い。上位層、下位層の人数が少なく、平均正答率が伸びていない。また、「生命」を柱とする領域で全国平均を超える問題が多い傾向にある。短答式の問題は全国平均を上回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「思考・判断・表現」の観点では、全国平均を上回る問題が多かった。	
	努力が必要な問題	「エネルギー」を柱とする領域の問題で全国平均を下回り、特に力学の問題が苦手の傾向にある。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面では、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と肯定的に回答した生徒が、全国平均を上回った。授業中から少人数での話し合いを行う授業が増えた成果である。</li> <li>・自分の考えを発表する機会が、うまく伝えるように工夫することが苦手の傾向にある。短答式の問題だけでなく、記述式の問題に挑戦していく。</li> <li>・「自分には、よいところがあると思う」や「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答した生徒が、全国平均より多かった。</li> <li>・朝食を毎日食べたり、同じ時間に起床消灯したりするなど、基本的な生活習慣を見直すと、学習面でも生活面でも向上が期待できる。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

話し合う活動と振り返りシートをすべての教科で行うことで、記述式の問題の正答率が上がっている。また、NIEや各教科での発表する取り組みの成果がでている。ICTの活用面では、オンライン授業の取り組みは実施できているが、デジタル教材の取り組みが少ない傾向にある。基礎・基本の定着を目指して取り組む。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

「自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答した生徒が全国平均を上回ることから、1年生の頃から定期考査や長期休暇の前に、計画を立てて取り組むことができている。家庭学習を1時間以上取り組む生徒の数は、全国平均を下回るが、経年で比較すると増えている。毎日の家庭学習課題やNIEの活動を今後も継続し、家庭学習の習慣づけを行う。